

PS-API

インストールガイド DLL 版

Edition 11.60 R01
May. 29, 2020

パナソニック i-PRO センシングソリューションズ株式会社

本書の内容について.

- ・本書の一部または全部を複製することを禁じます。
- ・本書の内容および仕様は予告無く変更することがありますがご了承ください。

変更履歴

Version	変更日	変更内容
4.0 R01	Dec. 14, 2010	初版
4.1 R01	Aug. 24, 2011	2.1 ハードウェア環境の OS に Windows® 7 Professional SP1 を追加 2.1 ハードウェア環境の OS に Microsoft® Windows Server® 2003 を追加 3.1.1 パッケージ構成を更新しました。
5.0 R01	Dec. 27, 2011	2.1 ハードウェア環境の OS に Microsoft® Windows Server® 2008 R2 を追加 3.4/3.5 PS-ALARM のインストール/アンインストールを追加 3.6/3.7 PS-LOOKUP のインストール/アンインストールを追加
6.0 R01	Apr. 17, 2012	ドキュメントバージョンを変更
7.0 R01	Dec. 13, 2013	誤記訂正
7.1 R01	Mar. 21, 2013	2.1 ハードウェア環境の OS に Microsoft® Windows® 8 Pro を追加 3.2.PS-API インストール方法に Microsoft® Windows® 8 Pro を追加
7.2 R01	Jul. 12, 2013	ドキュメントバージョンを変更 3.2 PS-API インストール方法のネットワークインターフェースユニット用 ActiveX コントロール対応機種追加
7.4 R01	Mar. 26, 2014	2.1 ハードウェア環境の OS に Microsoft® Windows® 8.1 Pro を追加 2.1 ハードウェア環境を更新 3.2.PS-API インストール方法に Microsoft® Windows® 8.1 Pro を追加
8.1 R01	Jan. 20, 2015	2.1 ハードウェア環境を更新
9.0 R01	Jul. 17, 2015	2.1 ハードウェア環境を更新
9.2 R01	Oct. 14, 2015	2.1 ハードウェア環境の OS に Microsoft® Windows® 10 Pro を追加 3.2. PS-API インストール方法に Microsoft® Windows® 10 Pro を追加
9.3 R01	Jan. 22, 2016	2.1 ハードウェア環境の OS に Microsoft® Windows Server® 2012 Standard を追加 2.1 ハードウェア環境の OS に Microsoft® Windows Server® 2012 R2 Standard を追加 2.1 ハードウェア環境の OS から Microsoft® Windows Server® 2003 Standard 64 ビット版を削除 2.1 ハードウェア環境の OS から Microsoft® Windows Server® 2003 Standard 32 ビット版を削除 2.1 ハードウェア環境の OS から Microsoft® Windows Server® 2003 Enterprise 64 ビット版を削除 2.1 ハードウェア環境の OS から Microsoft® Windows Server® 2003 Enterprise 32 ビット版を削除 3.2. PS-API インストール方法に Microsoft® Windows Server® 2012 Standard を追加 3.2. PS-API インストール方法に Microsoft® Windows Server® 2012 R2 Standard を追加 3.3 PS-API アンインストール方法に Microsoft® Windows Server® 2012 Standard を追加 3.3. PS-API アンインストール方法に Microsoft® Windows Server® 2012 R2 Standard を追加
9.5 R01	Jun. 22, 2016	1.5 オープンソースソフトウェアを追加
10.0 R01	Feb. 8, 2017	2.1 ハードウェア環境を更新 3.2 PS-API インストール方法に H.265 を追加

Version	変更日	変更内容
10.1 R01	Jun. 19, 2017	社名変更 2.1 ハードウェア環境の OS から Microsoft® Windows® XP Professional SP3 を削除 2.1 ハードウェア環境の OS から Microsoft® Windows Vista® Business SP2 32 ビット版を削除 3.2/3.3 PS-API のインストール/アンインストールを更新
10.3 R01	Dec. 12, 2017	2.1 ハードウェア環境を更新
11.40 R01	Jun. 26, 2019	1.4. 本書での略称を更新 2.2. 開発環境を更新 3.1.1. DLL-Sample フォルダの構成を更新
11.60 R01	May. 29, 2020	社名変更 2.1 ハードウェア環境の OS に Microsoft® Windows Server® 2016 Standard を追加 3.1.1. DLL フォルダの構成を更新 3.2. ActiveX コントロールのリストを更新

INDEX

1.	はじめに.....	1
1.1.	PS-API について	1
1.2.	商標および登録商標について.....	1
1.3.	免責について	1
1.4.	本書での略称.....	2
1.5.	オープンソースソフトウェア	2
2.	動作環境.....	3
2.1.	ハードウェア環境.....	3
2.2.	開発環境.....	4
3.	セットアップ.....	5
3.1.	製品構成.....	5
3.1.1.	パッケージ構成.....	5
3.1.2.	インストール内容.....	9
3.2.	PS-API インストール方法	10
3.3.	PS-API アンインストール方法.....	15
3.4.	PS-ALARM インストール方法	17
3.5.	PS-ALARM アンインストール方法.....	18
3.6.	PS-LOOKUP インストール方法.....	19
3.7.	PS-LOOKUP アンインストール方法	20

1. はじめに

1.1. PS-APIについて

PS-API は、パナソニック i-PRO センシングソリューションズ株式会社製の映像監視セキュリティ製品(ネットワークカメラ、ネットワークディスクレコーダー、デジタルディスクレコーダー、ネットワークインターフェースユニット)を統一的な方法で制御したり、映像を取得したりするアプリケーションを開発するために提供されるソフトウェアライブラリです。PS-API は、ダイナミックリンクライブラリ(DLL)の形態で提供されます。

1.2. 商標および登録商標について

Microsoft®, Windows®は、米国Microsoft Corporation の米国およびその他の国における登録商標です。その他、本文中の社名や商品名は、各社の登録商標または商標です。

1.3. 免責について

- ・PS-API はパナソニック i-PRO センシングソリューションズ株式会社製のセキュリティ製品(ネットワークカメラ、ネットワークディスクレコーダー、デジタルディスクレコーダー、ネットワークインターフェースユニット)を制御するアプリケーションソフトウェア用のインターフェースを提供するものであり、PS-API 単独で犯罪などを防止するものではありません。
- ・付属のサンプルプログラムはPS-API の使用方法を記述したものであり、実際の監視運用を目的として作成されたものではありません。
- ・弊社は、いかなる場合も以下に関して一切の責任を負わないものとします。
 - (1) 本製品に関連して直接または間接に発生した、偶発的、特殊、または結果的損害・被害
 - (2) お客様の故意や誤使用、不注意による障害または本製品の損傷など
 - (3) お客様による本商品の逆コンパイル、逆アセンブルが行われた場合、それに起因するかどうかにかかわらず、発生した一切の故障または不具合
 - (4) セキュリティデバイスからダウンロードしたデータ等のパソコンにおける消失、あるいは漏洩等によるいかなる損害、クレームなど
 - (5) ネットワーク上からの不正アクセスなど悪意を持った第三者による画像データ、音声データ、認証情報(ユーザー名、パスワード)の漏えいなどによるいかなる損害、クレームなど

1.4. 本書での略称

本書では、下記の通り略記しています。

Microsoft® Visual C++ 2005 を Visual C++ 2005 と記述しています。

Microsoft® Visual C++ 2012 を Visual C++ 2012 と記述しています。

Network Camera は Camera または NW カメラと表記します。

Network Interface Unit は Encoderまたはエンコーダーと表記します。

Network Disk Recorder は NWDR と表記します。

Network Disk Recorder (NX シリーズ)は NX Series と表記します。

Digital Disk Recorder (HD300 シリーズ)は HD300 と表記します。

Digital Disk Recorder (HD600 シリーズ、HD700 シリーズ)は HD600/700 と表記します。

1.5. オープンソースソフトウェア

PS-API は第三者製ソフトウェアを含んでいます。

対象ソフトウェアを下記に記載します。

This software is based in part on the work of the Independent JPEG Group.

2. 動作環境

2.1. ハードウェア環境

PS-API をインストールするために必要な PC のスペックを示します。

Table 2-1 OS

OS	Microsoft® Windows® 7 Professional SP1 32 ビット版(*5)
	Microsoft® Windows® 7 Professional SP1 64 ビット版(*5)
	Microsoft® Windows® 8 Pro 32 ビット版(*2)
	Microsoft® Windows® 8 Pro 64 ビット版(*2)
	Microsoft® Windows® 8.1 Pro 32 ビット版(*2)
	Microsoft® Windows® 8.1 Pro 64 ビット版(*2)
	Microsoft® Windows® 10 Pro 32 ビット版
	Microsoft® Windows® 10 Pro 64 ビット版
	Microsoft® Windows Server® 2008 R2 Standard SP1 (*1)(*5)
	Microsoft® Windows Server® 2008 R2 Enterprise SP1 (*1)(*5)
	Microsoft® Windows Server® 2012 Standard (*1)
	Microsoft® Windows Server® 2012 R2 Standard (*1)
	Microsoft® Windows Server® 2016 Standard(Desktop Experience)

Table 2-2 最低動作環境

Processor(*3)	Intel® Core™2 Quad 2.66GHz 以上
Memory	2.0GB 以上
Hard drive	10GB 以上
LAN	100Mbps 以上

Table 2-3 推奨環境

Processor(*3)	Intel® Core™i7-4790
Memory	8.0GB 以上(*4)
Hard drive	10GB 以上
LAN	100Mbps 以上

(*1) PS-API を使用する場合は、Direct Show の機能を有効にするために、デスクトップエクスペリエンスの機能を有効化する必要があります。

(*2) Modern UI には対応していません。

(*3) 多画面表示を行う場合は、推奨環境をご使用ください。

(*4) デュアルチャンネル対応の同じメモリを 2 枚使用してください。

(*5) Windows® Internet Explorer®9 以上を使用することを推奨します。

2.2. 開発環境

PS-API DLL が対応しているアプリケーション開発ツールを以下に示します。

Table 2-4 Development Environment

Target	Development Tool
PS-API DLL	VisualC++ 2005 SP1
	VisualC++ 2012 (*1)

(*1) アプリケーション開発で、VisualC++ 2012 を使用する場合は、
Visual C++ 2012 ランタイムライブラリをインストールしてください。

3. セットアップ

3.1. 製品構成

3.1.1. パッケージ構成

PS-API_XXXXX_DLL.zip ファイルおよび、PS-API_XXXXX_DLL-Sample.zip ファイルを解凍すると以下のフォルダが展開されます。

※ XXXXX : バージョン番号

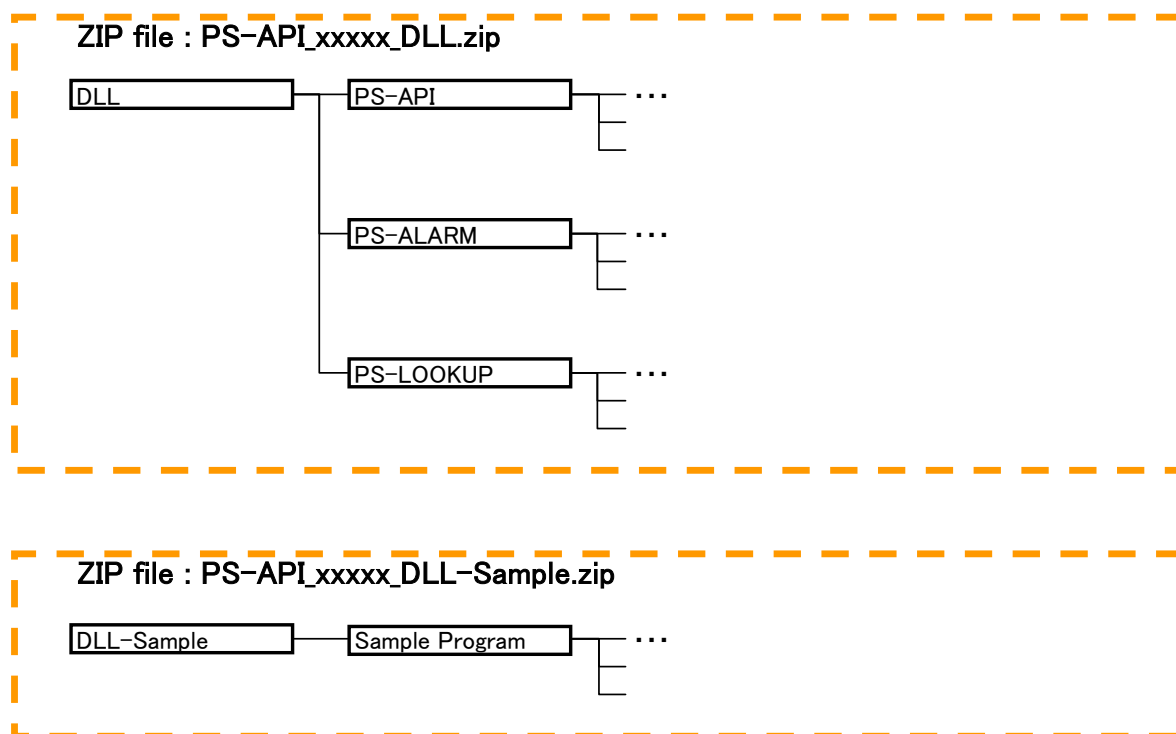


Figure 3-2 The layout of DLL directory

PS-API を DLL 形式で使用する場合は PS-API フォルダ以下のファイルを使用してください。
PS-ALARM を DLL 形式で使用する場合は PS-ALARM フォルダ以下のファイルを使用してください。
PS-LOOKUP を DLL 形式で使用する場合は PS-LOOKUP フォルダ以下のファイルを使用してください。

•DLL フォルダの構成

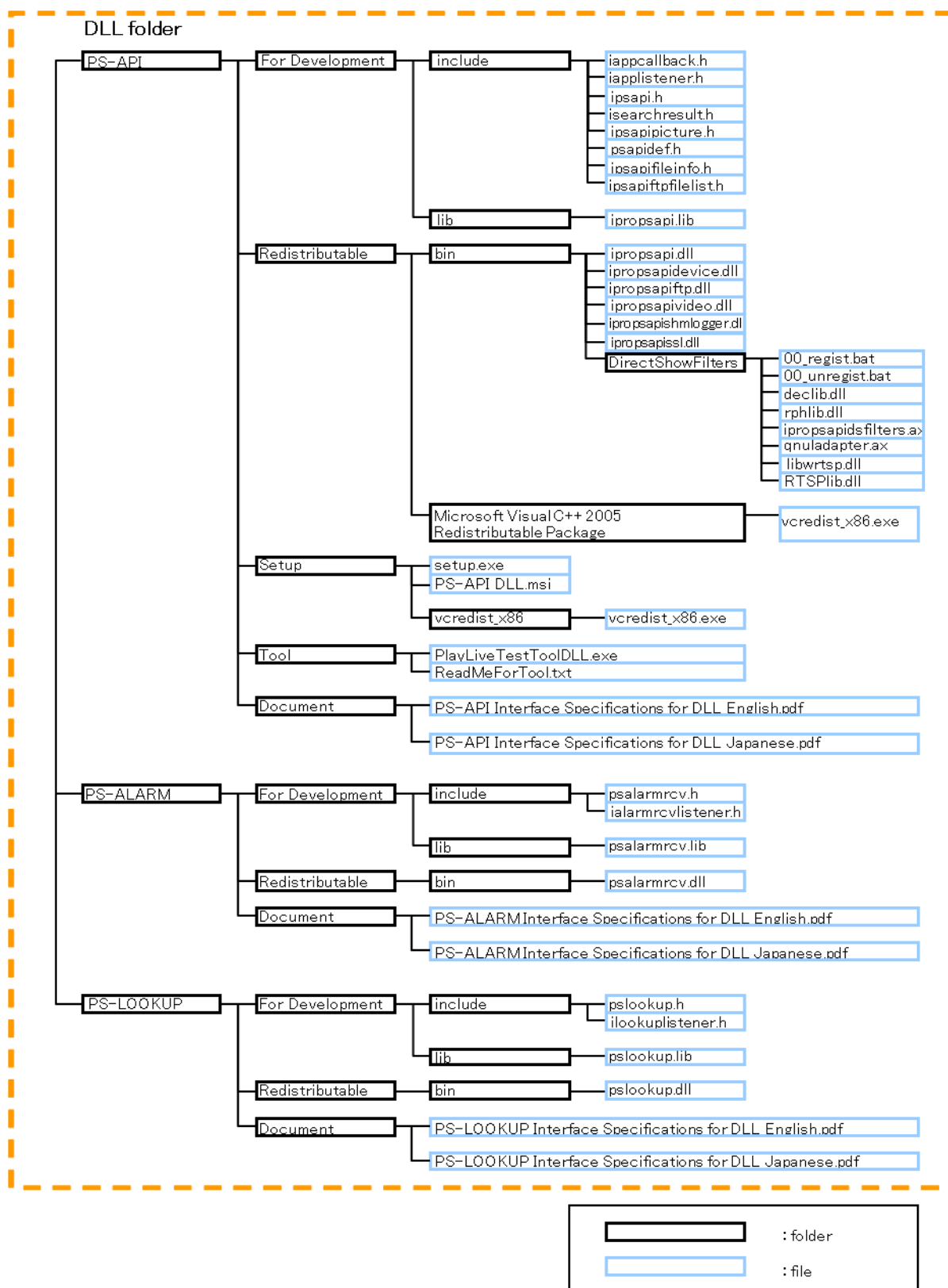


Figure 3-3 The layout of DLL directory

各フォルダに含まれるファイルの概要は以下の通りです。

Table 3-1 The Overview of Files

フォルダ名	用途
PS-API¥ For Development	ヘッダーファイル/lib ファイル。 開発用です。 再配布できません。
PS-API¥ Redistributable	DLL ファイル。 再配布可能ファイルです。
PS-API¥ Setup	DirectShow フィルターのインストーラー。 開発用です。 再配布できません。
PS-API¥ Tool	テストツール。 本ツールを使用して、PS-API を使用した機器への接続が確認できます。 再配布できません。
PS-API¥ Document	取扱説明書。(本書) 再配布できません。

フォルダ名	用途
PS-ALARM¥ For Development	ヘッダーファイル/lib ファイル。 開発用です。 再配布できません。
PS-ALARM¥ Redistributable	DLL ファイル。 再配布可能ファイルです。
PS-ALARM¥ Document	取扱説明書。 再配布できません。

フォルダ名	用途
PS-LOOKUP¥ For Development	ヘッダーファイル/lib ファイル。 開発用です。 再配布できません。
PS-LOOKUP¥ Redistributable	DLL ファイル。 再配布可能ファイルです。
PS-LOOKUP¥ Document	取扱説明書。 再配布できません。

・ DLL-Sample フォルダの構成

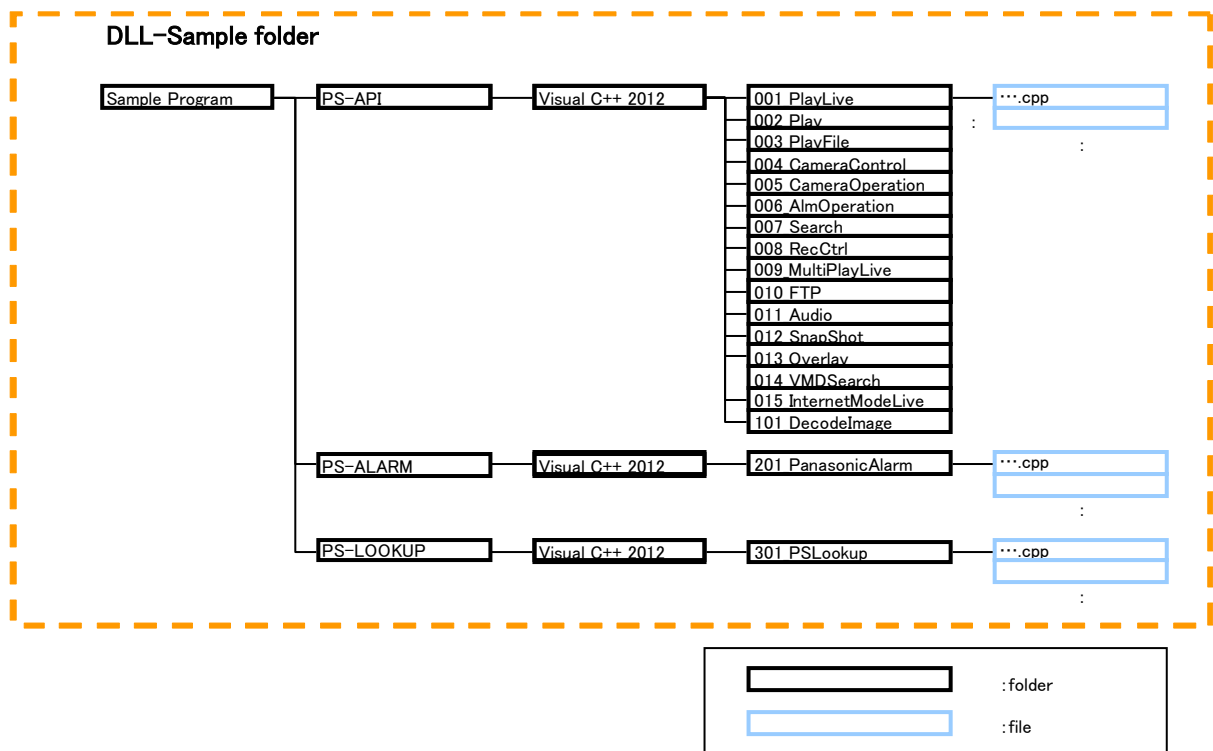


Figure 3-4 The layout of DLL directory

各フォルダに含まれるファイルの概要は以下の通りです。

Table 3-2 The Overview of Files

フォルダ名	用途
Sample Program	サンプルプログラム。 再配布できません。

3.1.2. インストール内容

本 SDK を使用するには ActiveX コントロール、DirectShow フィルターをレジストリ登録する必要があります。
詳細は「3.2. インストール方法」をご覧ください。

3.2. PS-API インストール方法

開発時と運用時ではインストール方法が異なります。それぞれ以下をご覧ください。
※インストールは Windows の Administrator 権限を持つアカウントで行ってください。
※すでに別のバージョンの PS-API がインストールされている場合は
「3.3 PS-API アンインストール方法」の手順に従って、アンインストールした後、
インストールを行ってください。

[開発時]

- (1) JPEG、MPEG-4、H.264、H.265 の映像を表示する場合、以下のいずれかの ActiveX コントロールをインストールします。(すべての ActiveX コントロールをインストールする必要はありません。)
ActiveX コントロールのインストール方法については、それぞれの機器の取扱説明書をご覧ください。

	JPEG	MPEG-4	H.264	H.265
ネットワークカメラ用 ActiveX コントロール (H.265、H.264 対応の NW カメラ)	Yes	Yes	Yes	Yes
ネットワークカメラ用 ActiveX コントロール (H.265 対応の NW カメラ)	Yes	–	–	Yes
ネットワークカメラ用 ActiveX コントロール (H.264 対応の NW カメラ)	Yes	Yes	Yes	–
ネットワークカメラ用 ActiveX コントロール (H.265、H.264 未対応の NW カメラ)	Yes	Yes	–	–
ネットワークインターフェースユニット用 ActiveX コントロール (GXE500/GXE100)	Yes	Yes	Yes	–
ネットワークインターフェースユニット用 ActiveX コントロール (NT304/NT314)	Yes	Yes	–	–
ネットワークディスクレコーダー用 ActiveX コントロール (H.265、H.264 対応バージョン)	Yes	–	Yes	Yes
ネットワークディスクレコーダー用 ActiveX コントロール (H.264 対応バージョン)	Yes	Yes	Yes	–
ネットワークディスクレコーダー用 ActiveX コントロール (H.264 未対応バージョン)	Yes	Yes	–	–
デジタルディスクレコーダー用 ActiveX コントロール (HD600/700)	Yes	–	Yes	–

注意

上記すべての ActiveX コントロールがインストールされていても問題ありません。

PS-API から接続して使用する機器がデジタルディスクレコーダー(HD300)のみの場合は、本手順(1)を行う必要はありません。

JPEG の映像を表示する場合で、かつ音声機能を使用しない場合は、ActiveX コントロールをインストールせずに使用することができます。このとき、音声機能に関するエラーが発生しますが、映像表示機能には影響ありません。

- (2) 「DLL¥PS-API¥Setup¥setup.exe」を実行し、画面の指示に従ってインストールしてください。
標準設定でインストールすると、「C:¥Program Files¥Panasonic¥PS-API DLL」にフォルダーが作成され、
PS-API のファイルがコピー、レジストリ登録されます。

メモ.....
Microsoft Visual C++ 2005 Redistributable(Visual C++ Runtime Libraries (x86))のインストーラーが起
動した場合、画面の指示にしたがってインストールしてください。
.....

- (3) 開発するプロジェクトに「DLL¥PS-API¥For Development¥include」フォルダ以下のヘッダーファイルをインポートします。
また、必要に応じて「DLL¥PS-API¥For Development¥lib」フォルダ以下の lib ファイルをプロジェクトに追加してください。
- (4) 「DLL¥PS-API¥Redistributable¥bin」フォルダ以下の DLL ファイルを以下のいずれかのフォルダへコピーします。
- 実行ファイルを含むフォルダ
 - カレントフォルダ
 - Windows のシステムフォルダ
 - Windows のフォルダ
 - 環境変数「PATH」に指定されているフォルダ
- (5) 手順(1)から手順(4)まで行ったら、PC を再起動してください。

【運用時】

- (1) JPEG、MPEG-4、H.264、H.265 の映像を表示する場合、以下のいずれかの ActiveX コントロールをインストールします。(すべての ActiveX コントロールをインストールする必要はありません。)

	JPEG	MPEG-4	H.264	H.265
ネットワークカメラ用 ActiveX コントロール (H.265、H.264 対応の NW カメラ)	Yes	Yes	Yes	Yes
ネットワークカメラ用 ActiveX コントロール (H.265 対応の NW カメラ)	Yes	–	–	Yes
ネットワークカメラ用 ActiveX コントロール (H.264 対応の NW カメラ)	Yes	Yes	Yes	–
ネットワークカメラ用 ActiveX コントロール (H.265、H.264 未対応の NW カメラ)	Yes	Yes	–	–
ネットワークインターフェースユニット用 ActiveX コントロール (GXE500/GXE100)	Yes	Yes	Yes	–
ネットワークインターフェースユニット用 ActiveX コントロール (NT304/NT314)	Yes	Yes	–	–
ネットワークディスクレコーダー用 ActiveX コントロール (H.265、H.264 対応バージョン)	Yes	–	Yes	Yes
ネットワークディスクレコーダー用 ActiveX コントロール (H.264 対応バージョン)	Yes	Yes	Yes	–
ネットワークディスクレコーダー用 ActiveX コントロール (H.264 未対応バージョン)	Yes	Yes	–	–
デジタルディスクレコーダー用 ActiveX コントロール (HD600/700)	Yes	–	Yes	–

注意

上記すべての ActiveX コントロールがインストールされていても問題ありません。

PS-API から接続して使用する機器がデジタルディスクレコーダー (HD300) のみの場合は、本手順(1)を行う必要はありません。

JPEG の映像を表示する場合で、かつ音声機能を使用しない場合は、ActiveX コントロールをインストールせずに使用することができます。このとき、音声機能に関するエラーが発生しますが、映像表示機能には影響ありません。

- (2) ターゲット環境に Visual Studio 2005 SP1 がインストールされていない場合、
「DLL¥PS-API¥Redistributable¥Microsoft Visual C++ 2005 Redistributable Package」以下の
「vc redistrib_x86.exe」を実行し、Visual C++ ライブラリのランタイム コンポーネントをインストールします。

- (3) DirectShow フィルターをレジストリ登録します。
「DLL¥PS-API¥Redistributable¥bin¥DirectShowFilters」フォルダ以下の全ファイルを任意のフォルダにコピーし、「00_regist.bat」ファイルを管理者権限で起動したコマンドプロンプトから実行してください。

注意

ファイルパスに ASCII コード以外の文字が含まれると、正しくレジストリ登録ができない場合があります。

- (4) 「DLL¥PS-API¥Redistributable¥bin」フォルダ以下の DLL ファイル(ipropsapi.dll、ipropsapidevice.dll、ipropsapiftp.dll、ipropsapivideo.dll、ipropsapishmlogger.dll)を以下のいずれかのフォルダへコピーします。
- 実行ファイルを含むフォルダ
 - カレントフォルダ
 - Windows のシステムフォルダ
 - Windows のフォルダ
 - 環境変数「PATH」に指定されているフォルダ
- (5) 手順(1)から手順(4)まで行ったら、PC を再起動してください。

3.3. PS-API アンインストール方法

以下の手順に従って、本 SDK をアンインストールしてください。

【開発時】

- (1) [コントロールパネル] - [プログラムのアンインストール]をクリックします。
- (2) インストールされているプログラムの一覧から「PS-API DLL」を選択し、[アンインストール]ボタンをクリックします。
以降、画面の指示にしたがって操作します。
- (3) 必要に応じて[プログラムと機能(プログラムの追加と削除)]から「Microsoft Visual C++ 2005 Redistributable」をアンインストールします。
- (4) インストール時にコピーした全ファイルを削除します。

[運用時]

- (1) DirectShow フィルターをレジストリから削除します。
インストールの手順(2)でコピーしたファイルのうち「00_unregist.bat」を管理者権限で起動した
コマンドプロンプトから実行してください。

注意

ファイルパスに ASCII コード以外の文字が含まれると、正しくレジストリ登録ができない場合があります。

- (2) 必要に応じて[プログラムと機能(プログラムの追加と削除)]から「Microsoft Visual C++ 2005 Redistributable」をアンインストールします。
- (3) インストール時にコピーした全ファイルを削除します。

3.4. PS-ALARM インストール方法

開発時と運用時ではインストール方法が異なります。それぞれ以下をご覧ください。

※インストールは Windows の Administrator 権限を持つアカウントで行ってください。

※すでに別のバージョンの PS-ALARM がインストールされている場合は

「3.5 PS-ALARM アンインストール方法」の手順に従って、アンインストールした後、インストールを行ってください。

【開発時】

- (1) 開発するプロジェクトに「DLL¥PS-ALARM¥For Development¥include」フォルダ以下のヘッダーファイル (psalarmrcv.h、ialarmrcvlistener.h)をインポートします。
また、必要に応じて「DLL¥PS-ALARM¥For Development¥lib」フォルダ以下の lib ファイル (psalarmrcv.lib) をプロジェクトに追加してください。
- (2) 「DLL¥PS-ALARM¥Redistributable¥bin」フォルダ以下の DLL ファイル (psalarmrcv.dll)を以下のいずれかのフォルダへコピーします。
 - ・ 実行ファイルを含むフォルダ
 - ・ カレントフォルダ
 - ・ Windows のシステムフォルダ
 - ・ Windows のフォルダ
 - ・ 環境変数「PATH」に指定されているフォルダ

【運用時】

- (1) 「DLL¥PS-ALARM¥Redistributable¥bin」フォルダ以下の DLL ファイル (psalarmrcv.dll)を以下のいずれかのフォルダへコピーします。
 - ・ 実行ファイルを含むフォルダ
 - ・ カレントフォルダ
 - ・ Windows のシステムフォルダ
 - ・ Windows のフォルダ
 - ・ 環境変数「PATH」に指定されているフォルダ

3.5. PS-ALARM アンインストール方法

以下の手順に従って、本 SDK をアンインストールしてください。

【開発時】

- (1) インストール時にコピーした全ファイルを削除します。

【運用時】

- (1) インストール時にコピーした全ファイルを削除します。

3.6. PS-LOOKUP インストール方法

開発時と運用時ではインストール方法が異なります。それぞれ以下をご覧ください。

※インストールは Windows の Administrator 権限を持つアカウントで行ってください。

※すでに別のバージョンの PS-LOOKUP がインストールされている場合は

「3.7 PS-LOOKUP アンインストール方法」の手順に従って、アンインストールした後、インストールを行ってください。

【開発時】

- (1) 開発するプロジェクトに「DLL¥PS-LOOKUP¥For Development¥include」フォルダ以下のヘッダーファイル (pslookup.h、ilookuplistener.h) をインポートします。
また、必要に応じて「DLL¥PS-LOOKUP¥For Development¥lib」フォルダ以下の lib ファイル (pslookup.lib) をプロジェクトに追加してください。
- (2) 「DLL¥PS-LOOKUP¥Redistributable¥bin」フォルダ以下の DLL ファイル (pslookup.dll) を以下のいずれかのフォルダへコピーします。
 - ・ 実行ファイルを含むフォルダ
 - ・ カレントフォルダ
 - ・ Windows のシステムフォルダ
 - ・ Windows のフォルダ
 - ・ 環境変数「PATH」に指定されているフォルダ

【運用時】

- (1) 「DLL¥PS-LOOKUP¥Redistributable¥bin」フォルダ以下の DLL ファイル (pslookup.dll) を以下のいずれかのフォルダへコピーします。
 - ・ 実行ファイルを含むフォルダ
 - ・ カレントフォルダ
 - ・ Windows のシステムフォルダ
 - ・ Windows のフォルダ
 - ・ 環境変数「PATH」に指定されているフォルダ

3.7. PS-LOOKUP アンインストール方法

以下の手順に従って、本 SDK をアンインストールしてください。

【開発時】

- (1) インストール時にコピーした全ファイルを削除します。

【運用時】

- (1) インストール時にコピーした全ファイルを削除します。